

1) 季節の移ろい

❄️ 表情豊かな冬芽達

冬期や乾燥期など植物の生育に不適当な時期に形成される休芽の一種が冬芽です。寒い冬を越すために、冬芽は夏から秋につくられます。

ランやユリの休芽は地中に、タンポポやスマレの休芽は地表面に接した位置にあり、一年生植物は種子で冬を越します。



**イヌザクラ** 犬桜  
紅色の冬芽 白っぽい樹皮



**ウワミズザクラ** 上溝桜  
黒っぽい樹皮



**オオシマザクラ** 大島桜  
芽鱗(冬芽を保護するうろこ状の小片)がたくさんあります



**クサギ** 臭木



**ゴマギ** 胡麻木



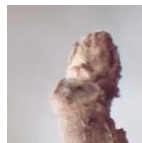
**コナラ** 小櫨  
冬芽の断面は5角形



**コブシ** 辛夷  
花芽の芽鱗は長い毛に、葉芽の芽鱗は短い毛に覆われます。



**ホオノキ** 朴の木  
とても大きな頂芽と、輪のように並ぶ葉痕



**ウメモドキ** 梅擬  
とても小さな冬芽



**コマユミ** 小櫨 小真弓  
縁取りがついた芽鱗



**イボタノキ** 水蠟の木  
残っている果実と冬芽



**ガマズミ** 莢蒾

ガマズミの種子は、果肉がついたままでは発芽できません。果実が鳥に食べられて果肉が消化され、糞に混ざって出てきた種子が発芽します。その場に落ちた果実からは発芽せず、鳥が種子を散布してくれるんですね。

芽鱗に毛がある冬芽も見えます。



**タラノキ** 榎の木  
新芽は春の苦みを味わえるタラの芽



樹木札の下

写真を拡大してみてください。何種類の生き物が見つかりましたか？もちろん、めくった札はすぐにそっと戻しました。



ウグイスカグラ 鶯神楽  
ツバ状の葉柄の基部が残っています



霜柱

弁天池から橋までの水路に液体の水は見あたりません

2) **ヌマガヤの生育ヶ所確認**

**ヌマガヤ** : RDB 千葉県；重要保護生物 (B) 絶滅危惧Ⅰ類 環境省；－  
千葉県にあることが珍しく、貧栄養性湿地に生えるイネ科の植物。

秋から冬にかけての時期は、周辺のカササゲよりもヌマガヤの緑色が早く抜けてくるので、ヌマガヤを確認しやすくなります。

3) **弁天水路沿いの確認作業**

17日合同活動日に予定されている、池と水路の泥上げに先立ち、弁天水路沿いのヌマガヤとコバギボウシの生育地に泥が被らないよう、目印として白色のテープで囲いました。

毎年カウントするコバギボウシの開花株数は、湿性環境の光環境維持の指標ととらえられています。



コバギボウシ 小葉擬宝珠  
多年草  
果実の中に黒い種子が見えます

4) **アオコの確認 (先週)**

5) **水質調査 (翌日)**

(写真撮影：藤原俊和 上田真佐江)

参加人数

5名